

歯学部ルネサンス

歯学部生の今

歯学科2年 松澤 耕太郎

この春に2年生に進級してから早くも3か月が経とうとしています。2年生に進級してからは生活が大きく変わり、多くの人が学習や部活動など忙しい毎日を過ごしています。季節は春から夏へと移り変わり、新しい環境にもようやく慣れてきたように感じます。今回は進級してからの3か月間の中で私が感じたことをご紹介しますと思います。

2年生に進級して、専門科目の学習が本格的に始まりました。専門科目の授業は昨年までの教養科目の授業とは異なり、内容が深く1回あたりの授業で学習することも非常に多くなったように感じます。昨年までとは比べ物にならないほど覚えるべき事項が多く、授業の難易度も高いため、日々の授業に何とかついていけるよう、予習や復習を欠かさず行うようにしています。日々の学習に追われる毎日ではありますが、それでも専門科目で学んでいる内容は将来歯科医師になるために必要な知識でもあるため、モチベーションを保って意欲的に学習に取り組んでいる人が多いように感じます。

新型コロナウイルスに対する規制も徐々に緩和されつつあり、ほとんどの授業が対面授業となりました。オンライン授業が主体だった昨年までとは違い、集団で授業を受けることが多くなったため、周りの人と接する機会も増えました。休憩時

間にも勉強をしたりお互いに分からないところを教え合ったりする姿が見受けられ、意欲的に学習に臨んでいる人が多いように感じます。そんな周りの姿に私自身も日々刺激を受けながら生活しています。

また、私は江戸千家茶道部に所属しており、6月には燕喜館で開催された開学記念茶会に参加しました。このお茶会で私自身は初めてお点前を披露させていただきました。練習時間が限られていたため、大勢の方の前でお点前をすることに強い不安感がありましたが、滞りなく終えることができ、練習の成果を出せたのではないかと思います。当日はお点前を披露するだけでなく、他の流派のお茶席にも入ることができました。一口に茶道といっても、流派ごとに作法が異なるため、他流派のお点前を拝見するたびに、長い歴史の中で培われてきた茶道という文化の奥深さを感じます。歴史ある建物の中で季節を感じながらお茶を楽しむことができたことも非常に貴重な体験となりました。これからの部活でもさらにより良いお点前ができるよう練習に励みたいと思います。

夏季休業が明けると前期の定期試験が始まります。これまでもいくつかの試験を受けてきましたが、夏季休業明けは短期間に試験が集中するため、これまで以上に忙しくなることが予想されます。困難な日々が続きますが、「よい歯科医師になること」を目標に周囲の人と互いに助け合いながら、学年全員で乗り越えていきたいと思いません。

歯学部生の今

歯学科2年 脇本 和

歯学科2年生が始まり、私たちは大きく2つの変化を迎えました。1つは専門科目の授業の開始、もう1つは新型コロナウイルス対策の緩和です。私は、最初は専門科目の勉強についていけるかという不安や、去年はほとんどリモートによる授業だったためクラスメイトと仲良くなれるかといった緊張も感じていました。しかし実際は、忙しいとは言いながらも充実した日々を送っています。

まずは、専門科目についてです。1年生と比べ勉強が大変なのはもちろんですが、いよいよ将来に直接つながる勉強が始まったという喜びは大きいです。自分の興味がある分野を深く学ぶと、受験勉強や教養科目の勉強よりも疑問点や異なる視点からの考えが次々と浮かんできて楽しいです。一方、先生方の講義を聞く中で、実際の診察や手術の様子がより具体的に想像できるようになり、歯科医師という職業の責任の重さをひしひしと感じています。思いやりのある人でも、器具の適切な処理方法が分からなければ、患者さんの命を奪ってしまう可能性があります。自分は、知識の欠落によって簡単に人の命を奪ってしまい得る業界に足を踏み入れたのだと改めて実感しました。「進級するために勉強するのではなく、良い歯科医師になるために勉強しよう」とおっしゃった先生がいましたが、本当にその通りだと感じます。

「今学んでいる知識の定着が将来提供できる歯科医療の質を決める」という意識は、学習のモチベーションになっています。この意識は2年生以降も忘れずに持ち続けていきたいです。

次は、新型コロナウイルス対策緩和についてです。何よりも、友人と一緒に時間を過ごせることが嬉しいです。勉強で分からないところを教えてもらったり、部活の話をしたり、一緒にお昼ご飯を食べたり、大笑いしたりするだけでとても元気が出ます。また、今年は数年ぶりに歯学部運動会が開催されました。どの競技も歯学部2年生一丸となって戦い、総合2位を獲得できました。先頭に立って作戦を立ててくれる人や、それについていく人、そして応援する人がいて、クラスメイトの素敵な一面をたくさん知ることができました。それは運動会に限られたことではありません。部活やアルバイトをしながらも勉強に励む友人の姿を見て、自分も頑張ろうと毎日刺激を受けています。

こうして少しずつ日常が戻ってきたようにも思えますが、まだ新型コロナウイルスが終息したわけではありません。旭町キャンパスは病院と併設されていることもあり、自分の行動が周囲に及ぼす影響をよく考える必要があります。迂闊な行動で今の生活が壊れないよう留意しつつ、新型コロナウイルスに負けずに、「これができなかった」ではなく「こんなことができた」という種類の思い出をたくさん作っていきたいです。

歯学部生の今

歯学科3年 西川 眞生

6月27日、解剖学実習第3回目の口頭試問が無事終わり、この原稿に向き合っています。3年生に進級して数ヶ月、2年生に比べて実習の割合が増え忙しさはありますが、少しずつ専門的な知識を身につけることができる環境に喜びを感じる毎日です。今回は前期のカリキュラムの中で特に印象に残っている解剖学実習について書こうと思います。

解剖学実習は5、6人で1グループとなり、ご献体を解剖させていただきながら全身の構造や身体の仕組み、筋肉、動脈や神経の走行など座学では決して理解することができない領域までをも学ぶことができる貴重な授業です。また、身体は個人の生きてきた軌跡が鮮明に刻まれているため、解剖を進めていくとその方の生活習慣や生前のADLが予測できたりとどのような人生を歩まれてきたのかを考え、改めて「生命の尊さ」を直接肌で感じることもできる時間となっています。そのため、授業中の解剖で学ぶ知識は膨大で予習や復習が非常に大変ではありますが、このような機会は一生に一度であることを常に念頭に置いて残

りも気を引き締めて精進していきたいです。

また、この解剖学実習を行うにあたり指導してくださる先生方、新潟白菊会の方々やご遺族の方々、勉学を共にしてくれる友人達、歯学部での勉強を応援してくれている両親には感謝してもしきれません。私の班はペルーから来日している助教のAngela先生が担当して下さっていますが、丁寧に分かりやすく指導して下さり毎回の実習で先生から学ぶことができ本当に嬉しいです。さらに日本語、英語、ラテン語が織り混ざった会話のため、同時に他言語の学習もできて英語を勉強中の自分はさらに学習密度の濃い時間になっています。しかし、学びはやはり1人では行うことができません。同じ班や同期の皆と協力しながら学習を進め、時には身体の構造について議論し合い同定に至ったり、口頭試問の準備をしたりと切磋琢磨しています。友人達が一緒に真剣に取り組んでいるからこそ、自身も頑張ろうという姿勢を保っているのだと思います。そして、東京の実家から応援してサポートしてくれている両親にはこの場を借りて、お礼を伝えたいです。これからもこの環境を当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れずにこの実習で得た学びをこれから先の人生に活かしていきます。



解剖実習班、インストラクターのAngela先生と（著者は左から3番目）

歯学部生の今

歯学科3年 平山純成

こんにちは、歯学科3年の平山純成です。今回のテーマは「歯学部生の今」ということで私の学校生活について紹介していきたいと思います。歯学科3年で行っている活動といえば人体解剖学実習です。人体解剖学実習では実際にご検体を解剖していく中で各作業はもちろん、口頭試問やスケッチを通して人体の構造や仕組みを理解していきます。解剖学実習が始まった当初はご献体に対して不安感がありましたが、実習回数を重ねるごとにその不安感も薄れていき、スムーズに解剖学実習を進めることができました。ちなみに口頭試問とは先生と対話をしていく中で知識の理解度や定着度を評価していくものです。先生がおっしゃっていたように口頭試問は先生との真剣勝負であり、時にはうまく行かないこともありましたが、口頭試問を通して解剖学を継続的に丹念に学ぶことができました。

また、今年は歯学部運動会が行われました。歯学部運動会は4年ぶりということで前日準備や当日の運営を含めて分からないことだらけで大変でしたが、運動会を経験している5年生の皆さんに

助けてもらいながら運動会を楽しむことができました。5年生の皆さんありがとうございました。運動会の競技について私は障害物・借り物競争、大縄、綱引きに出場しました。綱引きでは6年生と先生の混合チームと対戦しましたが、強すぎる6年生と先生になす術なく負けてしまいました。来年以降は勝てるように日常的に運動していこうと思いました。しかし、3年としては15人16脚で2位になることができ、リレーではアンカーで逆転したりなどとても盛り上がったと同時に3年全体の仲が深まったと私は感じました。

次に部活動について話したいと思います。私は軟式野球部に所属しています。私は大学で8年ぶりに野球をしましたが、最初は大学の野球についていけず守備もバッティングも未熟でした。しかし、先輩方が一から指導してくれたおかげで少しずつ上達することができました。先日、春季リーグ戦が行われました。春季リーグ戦はチームとしてベスト4という成績でしたが、個人としては打撃成績があまり良くなかったので次の秋季リーグ戦までに少しでも改善していきたいと思います。

最後に歯学部生活はととても大変ですが、同期である57期のみんなと一緒に歯科医師になれるように頑張っていきたいと思います。



歯学部運動会の様子（著者は前から3列目の右から4番目）

歯学部生の今

歯学科4年 渡邊 開

こんにちは。今回初めて執筆させていただきま
す。今まで友人が歯学部ニュースの執筆を任され
ているのを見て、いつか自分も書く時が来るのだ
ろうかと考えていましたが、4年生という歯学部
生活も折り返しを迎えたところでこの機会をいた
だきました。

私からは歯学部生の学生生活について、勉強、
部活、日常生活の3つに分けてお話ししたいと思
います。

まず、勉強について今まで基礎の科目がメイ
ンのカリキュラムでしたが、3・4年生になり実習
が増えました。実際に手を動かして自分で考えな
がら作業を行うことで段違いに理解が速くなった
ように思います。私は、1年生から歯科助手のア
ルバイトをしているのですが、実習で治療を教
わったことによって今先生が何の治療をどんな目
的を持って行っているのかを理解できるようにな
ってきました。そして、治療後に先生と話した
時に、実際私が今大学で学んでいることが臨床
の現場に繋がっているのだなと強く実感するこ
とができ、歯学の勉強に好奇心を持って臨めるよ
うになりました。歯科助手の業務は学生の時から
臨床の現場を見るため、実習の意義を想像しやす
くなります。歯学部生の皆さんにとって、私からお

勧めできるアルバイトのひとつです。

次に、部活動についてお話しします。私は、歯
学部バドミントンに所属しているのですが、部活
動は学生生活において学業とならば大きな自己成
長の柱のひとつだと考えています。継続的な練習
や努力を通じて養った目標達成の意欲は、私に多
少の困難に立ち向かう精神力を与えてくれていま
す。

現在私はコロナが明けた最初の幹部学年として
部を率いる難しさを実感していますが、6月に他
大学との交流で初めて県外に遠征を行った経験は
率直にとっても楽しいものでした。夏にはデンタル
が行われ、さらに全国の歯学部生と交流を深めら
れることを心待ちにしています。

そして、最後に日常生活についてです。最近私
は日常生活で歯学について考えさせられることが
度々ありました。例えば、2歳の甥のお母さんから
子どもの歯の生え方について尋ねられたことや
TV通販の歯磨き粉の良さ悪しを家族から聞かれ
たことなどです。振り返ると我々の生活と歯学は
よく関わりがあるように感じます。そして、実際
私も事あるごとにどうなのだろうと疑問を持ち、
考えるようになりました。これから進級していく
と、臨床実習が始まります。患者さんの疑問も日
常生活の中から生まれると思います。それに正し
く答えられるように、日頃から歯学に関する事で
疑問に思った事はすぐ調べるという習慣を身に付
けていきたいです。

歯学部生の今

歯学科4年 新谷 愛

4年生ももうすぐ半分が過ぎようとしています。私は編入生なのですが、高校時代から歯のグッズを集めるほど歯が好きだったので、今こうして歯学の道を歩んでいることを思うと感慨深く、本当にありがたいことだと感じています。

4年生では、全部床義歯学実習や予防歯科学実習に取り組んでいます。全部床義歯学実習では、0.1mm単位で人工歯を並べたり、歯肉の形態を再現するのが難しいですが、一生懸命並べた歯を見ると達成感を感じ、愛着がわいてきます。また、予防歯科学実習では、いくつかのグループに分かれ、それぞれが口臭、歯科材料、歯磨剤、洗口剤などに関する実験を行って、最後に他班の前で発表を行います。私たちのグループでは市販の洗口剤を1か月間使い続け、その効果を比較します。条件を揃えるために、朝は歯磨きだけ、昼食後は洗口剤を使用、夕食後は洗口剤を使用してから1時間後に歯磨きをする、という生活を送っています。洗口後は1時間飲食できないのですが、そういう時に限ってどうしようもなく水が飲みたくなったり、偶然おいしそうなお店を見つけてしまったりして困ります。ですが、忍耐力が鍛えられ、規則正しい生活が送れるため、ありがたい実習です。私たちのグループの担当の先生はミャンマー出身で、日本語だけでなく英語を使いながら教えて下さるので、英語に触れ、使う機会が多く、とても充実しています。

講義では、皆でディスカッションをしながら1つのプロダクトを完成させる形式のものが増えて

きました。ディスカッションにおいては、これまでの基礎知識が体系づけられていることは前提として、自分の考えを言語化し他者に伝える能力、他者の考えを尊重し引き出す能力、様々な意見を調整する能力などが求められます。これらの能力は、多種多様の背景を持つ患者さんやその家族に寄り添い、多職種連携により質の高い歯科医療を提供するために不可欠なものだと感じています。簡単に身に付くものではないですが、先生方や先輩・同期・後輩に学びながら、徐々に育てていきたいです。

最後になりましたが、私は編入したこのクラスでたくさんの良い出会いに恵まれました。日々学びを共にしている同期は、一人一人に尊敬するところや見習いたいところがあって、多くのことを気付かせてもらったり教わったりしています。いつも仲良くしてもらっている編入同期は、それぞれ独自の切り口を持っていて、皆で話していると、物事を多角的に捉えることができ、新しいものが生み出されるような感覚を覚えます。それぞれにやりたいところがあって、様々な分野に進むと思いますが、「将来皆で何か新しいことができたらいね！」と夢を膨らませています。私自身はCODA (Children of Deaf Adult(s) : きこえない・きこえにくい親をもつきこえる子ども)、ヤングケアラー、障がい学生に関する研究のお手伝いをさせて頂いて、マイノリティが生きやすい環境・社会をつくっていくために、歯科の分野から何ができるだろうかと日々考えています。そのアイデアを形にできるよう、これからも様々なことを吸収しながら、じわじわとエネルギーを溜めていきたいです！

歯学部生の今

歯学科5年 金子裕太

1年生の頃、歯学部棟のなかで緑衣を着た先輩が別次元の人と感じていました。それが、今自分が着ているのを考えると月日の流れの早さを感じます。

5年生になって講義の数は減り、実習がより臨床に近いものとなっています。実習が増え、7月にはCBTが控えており、目まぐるしい日々を過ごしています。

5年生になって大きく変わったと感ずることがあります。それは、新しい知識を与えられて学ぶという学習から、自分の知識を用いて考え、補うべき知識や技能を自分から学習するようになったことです。実際、座学や今までの実習で学んだことを同級生に行なうポリクリや、様々な治療を必要としている口腔を再現した模型を用いて各々で計画を立て治療をするという総合模型実習が始まりました。ポリクリでは、4月の段階で浸潤麻酔や下顎孔伝達麻酔を行いました。初めて針を刺入する際の、緊張感と、手が汗ばんでいく感じはかなり印象に残る経験でした。

日々の実習を通して思うことは、座学で学んだことを元に実際に治療をする難しさと、そもそも今までの学習が本当に自分のものとなっていないということです。実習で実際に治療計画を立てる過程で、一口腔単位の治療をするのがどれ程大変なことなのかを感じるとともに、やりがいや面白さのようなものも感じています。

忙しく大変な日々を乗り越えられているのは同期の存在が大きいと感じます。私は、同期となって5年目になった個性ある10人の仲間がいます。

コロナの影響は明らかにありましたが、制約のある中でもこの同期のおかげで色彩豊かな時間を過ごせています。本当に感謝しかないです。また、“55期生として一緒に卒業できるよう頑張らないといけない”という動機が、多少なりとも日々の学習意欲につながっているのもやはり仲間の存在の大切さを感じます。

大学生活も残り2年を切ってしまいました。今後学生中にやる一つ一つの手技が、次に行うのが患者さんに対してということも多いと思います。日々の実習や学習に緊張感を持って取り組んでいきたいと思います。末筆となりましたが、この有意義な大学生活は家族や先生方の支えや御指導あってであるということ強く感じています。改めて、未熟者な私が歯科医師になれるよう日々ご教授くださる先生方、見守ってくれている家族、仲間に感謝しています。



大切な仲間と、運動会にて
(著者は最前列左から1番目)

歯学部生の今

歯学科5年 今井 真実子

学生生活も5年目に突入しました。先生方にご指導いただき、同期と切磋琢磨しながら日々学んでいます。

5年生のカリキュラムは、アウトプットが多い印象です。特に、PBLや全身管理学の授業を受けながら強く感じます。これらは班員と話し合い自分たちで問題点を見つけ解決策を立てるような授業です。いままでに学習してきた内容を統合させて考えることが重要ですが、課題を解決するために不足している知識がわかり非常に有意義な授業であると感じます。また、知識ももちろんですが、グループで一つのプロダクトを完成させるにあたりコミュニケーション能力の重要性も感じています。限られた時間の中で班員の考えを聞き、自分の考えを伝え、相違点をまとめながら一つのプロダクトに帰着させることは容易ではありません。

加えて、総合模型実習やポリクリが始まりました。総合模型実習では、複数の歯科疾患を同一模型上に再現したものをを用いて、一口腔単位の治療を想定した実習を行います。模型にはう蝕、歯周疾患、歯の欠損等が再現されており、これらに対して治療計画を立てるとともに、その治療計画に沿ってマネキン上で治療します。この実習を行うにあたっては、分野ごとに学んできた実習の内容を統合的に理解することが必要です。今までは各歯科疾患への対応をそれぞれ学んできましたが、より実際の臨床に近い形で実習を行うことになり、その難しさを感じています。また治療計画を

実践するためには技能を高めることが重要です。

ポリクリでは各診療科のローテーション実習が行われます。形式は講義や模型実習など各診療科によって様々ですが、相互実習も多く含まれています。初めて人間の口腔内で器具を扱うので、模型との違いに苦戦していますが段々と臨床実習に近づいている実感がわき、身の引き締まる思いです。写真は、歯周病科におけるレーザー治療の実習です。うずらの卵の殻を硬組織、黒い斑点を歯石に見立て、レーザーの照射を体験しているところです。

7月にはCBT、9月にはOSCEがあります。これらに合格し、10月からの臨床実習に臨めるよう、知識・技能の両面においてさらに研鑽を積むとともに、コミュニケーション能力など医療従事者に求められることを身に付けていきたいです。



ポリクリ 歯周病科実習にて

歯学部生の今

歯学科6年 齋藤圭人

時が流れるのは本当に早いもので、気が付けば臨床実習も残り僅かとなりました。この度は歯学部ニュースという貴重な機会を頂いたので、この臨床実習を振り返りたいと思います。

私は今、諸先生方、同期である54期のみんなとともに臨床実習に取り組んでいます。新潟大学の特色である臨床実習は、我々歯学部6年生が学生歯科医師として、ご協力して下さる患者さんの一口腔内全体の治療計画を立案し、担当歯科医師として実際に診療に参加するというものです。自分は、臨床実習というシステムがあるからこそこの新潟大学に入学したいと考えておりました。学生時代から手を動かすことができるのは、今後の歯科医師人生の中で大きなアドバンテージになると、そう考えていたからです。しかしながら、そんなにも熱望した臨床実習がいざ始まるうしたとき、自分が最初に感じたのは、大きな不安でした。CBTなどを通して歯学に対する勉強をしました。ファントム模型を使い実技の練習もしました。しかしながら、生身の人間に処置を行うというのは人生を通して初めての体験です。患者さんの口腔内では唾液や血液も出ますし、なにかあれば患者さんは痛みを感じ、最悪の場合、医療事故を引き起こしてしまう可能性さえあります。臨床実習に伴う大きな責任を改めて考えた時、自分にそんなことができるのかと不安で夜も眠れませんでした。

しかし、診療に責任が伴うことは避けて通れない摂理であり、新潟大学の臨床実習ではその責任に答えられるような体制がしっかり整備されています。患者さんの引継ぎを行ってくれた先輩方、診療を行う前には必ずプレチェックを、診療中も温かくも厳しい指導を行ってくださる先生方、自分たちのことを信じ、臨床実習に協力して下さる患者さんのおかげで、私達も学生歯科医師としての責務を全うし、得難い貴重な経験をすることができています。自分の知識や技術の至らなさを思い知らされ、打ちのめされる日々ですが、学んだ知識と実際の診療の結びつきを体感し、少しずつですが自分の不安が自信にかわってきていると実感できます。不安がなくなることは生涯ないとは思いますが、恵まれた環境を存分に利用し、生涯学習を念頭に、これからも診療に臨んでいきたいと思っています。

今年度、とうとうコロナウイルスが5類に移行し、それに伴い歯学部運動会や全日本歯科学学生総合体育大会が数年ぶりに開催されるなど、少しずつではありますが、コロナ前の日常が戻ってきました。そういったイベントにも参加し、時折羽を休めながらもメリハリをつけて今後の臨床実習、国家試験に対して同期の仲間たちとともに日々邁進しようと思っています。

最後になりますが、ここまでお世話になった先生方、先輩方、患者さんにこの場を借りてお礼申し上げます。まだまだ未熟とは思いますが、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

歯学部生の今

歯学科6年 関 萌 香

私たち6年生は、臨床実習を行っています。今までの時間割から、午前、午後、放課後のスケジュールになり、生活も大きく変わりました。ガイダンスを受けた時は、カリキュラムについていけるか、とても不安でしたが、早くも三分の二が過ぎました。今年は4月から早期臨床実習の患者役実習が行われました。患者役実習とは、6年生が1年生の口腔内診査や清掃指導を行う実習です。6年前は、私たちが患者役だったことを思い出し、月日が経つのは早いものだなと感じます。

臨床実習では、主に総合診療科で1年を通し担当の患者さんの治療を行います。その他に専門診療科で、見学や介助を行います。総合診療科では、様々な治療を経験させていただいております。診療前には、基礎実習、授業、教科書を基に診療内容の準備をし、先生にプレチェックをしていただきます。そして当日診療を行い、診療後にはポストチェック、ポートフォリオで振り返りをします。今まで実習書や教科書で理解の不十分だった部分も先生方とディスカッションしたうえで臨床を経験することで、納得し、日々成長を感じています。また、自然と一つ一つの手順の意味を意識するようになり、記憶にも定着しやすくなりました。それと同時に今までの基礎実習に対する姿勢の甘さや勉強不足も感じました。

各専門科での見学・介助は患者さんとの接し方や技術などを学び、自身の診療に活かしています。さらに、知識や技術だけでなく、責任感や倫理観なども学んでいます。実際に患者さんに接してみないとわからないことや想像できないこともあり、実りある毎日です。失敗してしまうこともありますが、同じ失敗はしないように気をつけています。先生方は、お忙しいときでも、わかりやすく丁寧に指導して下さり、たくさんのことを勉強できています。いつも臨床実習にご協力くださる患者さん、先生方、病院で働く方々に感謝申し上げます。

これまでよりも大学で過ごす時間が長くなり、同級生の存在も大きなものとなりました。技術が上達している姿を見て、周りの成長を感じるとともに、少し焦り、刺激を受けています。また、相談に乗ってくれ、アドバイスをくれる同級生の存在は私の支えとなり、ここまでくることができました。落ち込んでいる時も、技工室でみんなの声を聞くと元気になれます。

最近では医局説明会や研修説明会が行われ、卒業が近づいていることを感じます。国試については、金曜日の放課後に補講が開かれています。サポートして下さる先生方に感謝し、勉強に励んでいきたいです。

残りの実習も少なくなってきましたが、みんなで協力して最後まで気を抜かず、55期の皆さんに引き継げるようにしたいです。

コロナ禍を乗り越え…

口腔生命福祉学科2年 三浦莉里子

入学してからも一年以上経つのかと思うと、時の流れの早さを感じる。無事二年生に進級してからというもの、毎日を忙しく過ごしている。一年生の頃はコロナ禍ということもあり、ほとんどがオンライン授業だった。しかし今となっては全てが対面授業だ。同じ口腔生命福祉学科のみんなと、マスク越しではあるが顔を合わせて講義を受けられることに非常に嬉しさを感じている。一年生では専門科目について学ぶ授業がかなり少なかったため、口腔生命福祉学科に在籍していることを実感しにくかった。だが、歯学部から歯科や福祉に関わる内容を直接教えていただけるようになり、自分が本当に口腔生命福祉学科の生徒であることをひしひしと認識することになった。また四月以降、今までは出来なかった実際に医療・福祉の施設を見学する機会をつくっていただき、自分の肌で現場の雰囲気などを感じられたのはとても貴重な経験だった。画面越し、授業の話だけでは分からない生の声を聞き学ぶことは、他のどの学習よりも理解が進むことを改めて感じた。歯科や福祉に関する更に専門的な授業、加えてPBL式の授業も始まっている。自主的調査と意見交換をメインに進むPBL内での意見交換では多くの刺激をもらっている。自分の考えを上手く伝えるのがいかに難しいかを思い知らされているが、これからのグループ学習にも力を入れていきたい。実習の授業も徐々に始まりつつあり、や

ること・覚えることが山ほどあるが、同士と共に頑張っていこうと思う。

他にも新年度が始まってから嬉しいことがあった。私は江戸千家茶道部に所属しているのだが、先日コロナ禍後初めて開催された「新潟大学開学記念茶会」に参加することができたのである。新型コロナウイルスの流行以来、席での出会いと作法を大切にする茶会は中止を余儀なくされていた。そんな中、開催された開学記念茶会。他流派の茶道部の方々、そして外部のお客さまも交えての茶会に参加するのは大学に入ってから初だった。先生や先輩に教えていただいたお点前をお客様の前で披露したり、季節のお菓子を楽しんだり、と有意義な時間を過ごした。高校でも茶道部に入っていた私にとって、久々の茶会への参加は本当に楽しいものだった。大学での友達を作るきっかけが少なかった中、茶道を通じて学部の垣根を越えた友達も多くできた。この関係性をずっと大切にしていきたい。

今年度は節目の年といえるだろう。なぜなら私事ではあるが、二十歳を迎えるからだ。また将来の進路に関しても徐々に考えなければいけない学年でもあることも理由の一つだ。医療に関わる学部にいる以上、感染対策は引き続き行っていく必要がある。その一方で、今しかない大学生活を楽しみたいとも私は考えている。専門科目の勉強により一層尽力することはもちろん、好きな語学学習にも力を注いでいきたい。自分の興味関心に目を向け、自分がどこでどんな仕事をしたいか考えるためにも「迷ったらまずやってみる」を心がけていこうと思う。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科 3年 三浦 葵

梅雨の季節になりいつも以上にどんよりした天気が続いているなか毎日学校に行くのはためらわれることもあります。頑張っています。大学生活が始まって早くも3年目に突入して日々流れるのがとても速く感じます。毎日学校に行き、友達と顔を合わせ、授業を受けている毎日は忙しいですがとても充実しています。

3年生になって大きく変わったことは2つあります。1つ目は福祉科目の授業が増えたことです。昨年度は福祉科目の授業が圧倒的に少なく、歯科のことを重点的に学んでいました。しかし、今年度は歯科と福祉の割合が半々程になり、その分勉強量も増えました。福祉の授業は主にPBL形式で行われることが多いです。知らないことが多い分自分で調べなければいけないことが多いのでとても大変です。また、福祉の分野では様々な制度や法律があり、日々改正がなされているため新しい情報に追いつくのが大変です。テレビでニュースを見ていて制度や法律の改正のニュースが流れてくると自然と目を向けるようになりました。講義を聞いたり調べ学習を進めたりしていくうちに今の福祉の現状が分かってきて、福祉の手が届かなかった悲しい現実があるとともに、福祉の手が届き笑顔が増えている現実も知り、もどか

しいなと思いました。

2つ目の大きく変わったことは進路について本格的に考え始めたことです。この学科は歯科衛生士と社会福祉士の2つの資格を取ることができるので将来の進路の幅がとても広いと感じています。私は高校生の頃から社会福祉士を目指しているのですが、昨年からは専門的な歯科の勉強をして、知識のみではなく実習も行う中で歯科衛生士の仕事もやりがいがあると思うようになりました。福祉の授業が始まったことにより、福祉分野にもさらなる興味関心を持つようになりました。つい数週間前に4年生の先輩方の公務員試験があったと話を聞いてもうあまり時間はないのだなと思いました。最近は友達と進路について話すことが多く、「夏休みに一緒にこのボランティア行こう」や「この講演会行こう」などの会話をしています。これからの夏休みを有効活用してさらに調べたり、見学に行ったり、ボランティアの活動をしたりして将来について考えていこうと思います。

夏休みが明けてテストを乗り越えたらよいよ大学病院での臨床実習が始まります。実際に患者さんを相手にするのはとても緊張します。今の状態では知識的にも技術的にも不安な部分があるので技術面では限られた実習の時間をしっかり活かし、知識面ではこれからの夏休みを有効に使って補っていきたいと思います。自信をもって臨床実習に臨めるように頑張ります。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 出戸千笑

原稿の依頼をいただき、4年生になった今、これまでの大学生活を振り返らせていただきました。コロナ禍の下でスタートした1年生では、五十嵐キャンパスでの授業が無くなり、知り合いもほぼいなく、思い描いていた大学生活とはほど遠い日々で不安でいっぱいでした。しかし、学校に行く機会が次第に増え、対面の授業を受けたり、おしゃべりをしたり、一緒にご飯を食べたりする中でみんなと一緒に大学生活を過ごせる幸せを感じました。2年生では相互実習が始まり、歯科衛生士の業務を身を持って実感することが出来た一方で、自分の未熟さに気付かされ落胆する場面も多々ありました。様々な不安を抱えて始まった3年生ですが、より専門的な知識・技術を学び、徐々に成長できていると感じました。また、福祉の授業が始まり、普段とは違う目線で物事を見ることで、社会で起きている問題への関心が一層深まりました。あっという間に4年生になり、現在では病院で充実した実習をさせていただいております。そこでは、3年生までの相互実習で経験したことが、臨床の場でどのように使われているのか実際に体験し、病院の歯科医師、歯科衛生士、看護師の方々にたくさん助けをいただきながら、実習に励んでいます。また、一人ひとりの患者さんと向き合う中で多くのことを学ばせていただいていると日々感じています。そして、4年生では他にも1ヶ月間の福祉実習、特論、卒論、就活、歯科衛生士と社会福祉士の国家試験勉強などやるべきことがたくさんあります。しかし、どれも自分の将来について考えることが出来る貴重な

経験となっています。

私の今までの大学生活はいつも不安と隣り合わせでした。分からないこと・出来ないことは今でもたくさんあります。一緒に学ぶ仲間がいなかったらここまで頑張っていたりませんでした。相互実習では出来ているところを褒め合い、出来ていないところはお互いにアドバイスし合いました。病院実習をさせていただいている今も、お互いに助け合いながら駆け抜けています。

今までみんなと学び、不安や、喜びを分かち合った時間を、これからも忘れることはありません。口腔生命福祉学科17期生のみんなには尊敬、感謝でいっぱいです。みんなと一緒に学べたこと、これからも学んでいけることは私の財産です。本当にありがとうございます。



これから始まる実習に向けた記念撮影

令和4年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	田村 浩平 (口腔生命科学)	Occlusal Support as a Predictor of 10-year Mortality Risk in Healthy Community-dwelling 80-year-old Adults (地域在住80歳健常高齢者における10年間の生命予後因子としての咬合支持)
博士(歯学)	清川 裕貴 (口腔生命科学)	Drug-Induced Naïve iPS Cells Exhibit Better Performance than Primed iPS Cells with Respect to the Ability to Differentiate into Pancreatic β -Cell Lineage (薬剤誘導を行ったナイーブ型iPS細胞は、プライム型iPS細胞に比較して、膵 β 細胞系への分化能に優れている)
博士(歯学)	五月女 哲也 (口腔生命科学)	Three dimensional analysis of ingestion focused on the differences in the eating tools (食具の違いに着目した捕食動作の三次元動作解析)
博士(歯学)	朴 沢 美生 (口腔生命科学)	Evaluation of oral function using a composite sensor during maximum lip closure and swallowing in normal children (健常小児における複合センサーを用いた口唇閉鎖機能の評価)
博士(歯学)	小野 喜樹 (口腔生命科学)	Periodontal tissue regeneration involves Wnt/ β -catenin signaling (Wnt/ β -cateninシグナルは歯周組織再生に関与する)
博士(歯学)	三井田 慶斗 (口腔生命科学)	炭化ケイ素繊維強化型新規フェイスガード材料の機械的強さおよび衝撃吸収量の評価
博士(歯学)	山本 悠 (口腔生命科学)	アバットメント締付けトルクによるプレロードが動的荷重付与後のインプラント周囲骨組織に与える影響
博士(歯学)	小林 亮太 (口腔生命科学)	Investigation of signaling pathways regulating both cell motility and proliferation of cultured oral keratinocytes for therapeutic use (培養口腔粘膜角化細胞の運動能と増殖能を制御するシグナル伝達経路の解明)
博士(歯学)	内藤 絵里子 (口腔生命科学)	口腔癌と口腔粘膜に対する重粒子線照射の影響に関する3次元in vitroモデルを用いた研究—異種放射線治療評価の標準化システムの構築—
博士(歯学)	新井 萌生 (口腔生命科学)	Effect of <i>Sparc</i> knockout on the extracellular matrix of mouse periodontal ligament cells (SPARCの欠失がマウス歯根膜細胞の細胞外マトリックスに及ぼす影響の解析)
博士(歯学)	三村 俊平 (口腔生命科学)	ウェアラブルデバイスを用いた骨格性下顎前突症患者における咀嚼行動の臨床的検討
博士(歯学)	吉田 智美 (口腔生命科学)	口腔内装置(OA)の長期使用によって閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)患者で生じる形態学的副作用とその予測についての側面頭部エックス線規格写真を用いた研究
博士(歯学)	岩森 大 (口腔生命科学)	Effect of carbonation and thickening on voluntary swallow in healthy humans (健常者において炭酸およびとろみ付けが随意嚥下に及ぼす影響)
博士(歯学)	小貫 和佳奈 (口腔生命科学)	Survey of oral hypofunction in older outpatients at a dental hospital (歯科病院外来通院高齢者における口腔機能低下症の評価と検討)
博士(歯学)	日野 遥香 (口腔生命科学)	Effect of bolus property on swallowing dynamics in patients with dysphagia (食品性状の違いが嚥下障害患者の嚥下動態にもたらす影響)

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	秋 森 俊 行 （口腔生命科学）	Search for new diagnostic markers for oral cancer and oral potential malignant disorders using LBC methods (LBC法を用いた口腔がん及び口腔潜在的悪性疾患に対する新規判定用マーカーの検索)
博士（歯学）	善 本 佑 （口腔生命科学）	Effect of Mandibular Bilateral Distal Extension Denture Design on Masticatory Performance (下顎両側遊離端義歯の設計が咀嚼能率に与える影響)
博士（歯学）	浅 見 栄 里 （口腔生命科学）	Anti-inflammatory activity of 2-methoxy-4-vinylphenol involves transcriptional inhibition of lipopolysaccharide-induced inducible nitric oxidase synthase by heme oxygenase-1 (2-methoxy-4-vinylphenolのRAW264.7細胞における抗炎症活性にはHO-1によるiNOS転写抑制が関与する)
博士（歯学）	SAEZ CHANDIA JORGE EDUARDO （口腔生命科学）	Effect of Sake lees (Sake-kasu) on osteoblast differentiation and bone metabolism (酒粕の骨芽細胞分化と骨代謝への効果について)
博士（歯学）	氏 田 倫 章 （口腔生命科学）	三叉神経刺激による三叉神経節細胞興奮の光学的解析：膜電位感受性色素を用いて
博士（歯学）	野 村 みずき （口腔生命科学）	下顎全部床義歯の調整時に加える力のコントロールに関する教育ツールの検討
博士（歯学）	築 野 沙絵子 （口腔生命科学）	Alterations in breathing during food capture in different food type and eating style (食品やその摂取方法の違いによる捕食時呼吸運動の変化について)
博士（歯学）	長 谷 川 静 （口腔生命科学）	歯列交換期の学童における咀嚼能力と体格・身体能力との関係
(早期修了)		
博士（歯学）	磯 野 俊 仁 （口腔生命科学）	Treatment of severe pneumonia by hinokitiol in a murine antimicrobial-resistant pneumococcal pneumonia model (マウス薬剤耐性肺炎球菌性肺炎モデルにおけるヒノキチオールによる重症肺炎治療効果)

令和4年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
修士 (口腔保健福祉学)	坂井 鮎 (口腔生命福祉学)	Changes in oral health status with dental intervention during the acute to subacute stages of stroke. (脳卒中急性期から回復期かけての歯科介入による口腔環境の変化)
修士 (口腔保健福祉学)	田中 淳 (口腔生命福祉学)	都道府県別にみた歯科診療所における在宅歯科医療の現状とその関連要因
修士 (口腔保健福祉学)	中村 夢衣 (口腔生命福祉学)	脳卒中と歯の喪失および身体活動量との関連：魚沼コホート研究ベースライン調査
修士 (口腔保健福祉学)	平原 茉結 (口腔生命福祉学)	Association between number of teeth, nutritional intake and sarcopenia in the elderly. : Baseline survey of Yuzawa cohort study. (高齢者における歯数および栄養摂取量とサルコペニアとの関連：湯沢コホート研究ベースライン調査)
修士 (口腔保健福祉学)	吉田 歩未 (口腔生命福祉学)	定期的歯科介入が行われている施設利用知的障害者の口腔内状態と障害支援区分との関連性
博士 (口腔保健福祉学)	土田 智子 (口腔生命福祉学)	MEMSマイクロ・スペクトロメーター・デバイスを用いた各種フィトケミカル添加による口腔カンジドーシス・常在菌舌粘膜モデルの蛍光スペクトル解析
博士 (口腔保健福祉学)	筒井 紀子 (口腔生命福祉学)	歯科診療所通院患者における不安の要因に関する研究－Modified Dental Anxiety Scale日本語版 (MDAS-J) を用いた分析－
博士 (口腔保健福祉学)	鈴鹿 祐子 (口腔生命福祉学)	歯科衛生士養成校学生の臨床実習におけるストレス反応の実態と関連要因
博士(学術)	高原 稔 (口腔生命福祉学)	児童養護施設のケア効果の検討－「Child Behavior Checklist (CBCL) による入所児童の評価と『新しい社会的養育ビジョン』との比較から」－